



ヒャクニチソウ（ジニア）の育て方

Q. 育てやすく、夏の間楽しめるきれいな花はありませんか？

A. ヒャクニチソウがよいでしょう。暑さと乾燥に強く、次々と小枝が出て色鮮やかな花を咲かせてくれます。

《ポイント》

成育が早く丈夫で作りやすいので、花壇、プランター、切花に使われます。

主な種類はエレガンス、リネアリス、メキシコジニアの3種です。

1. 種類

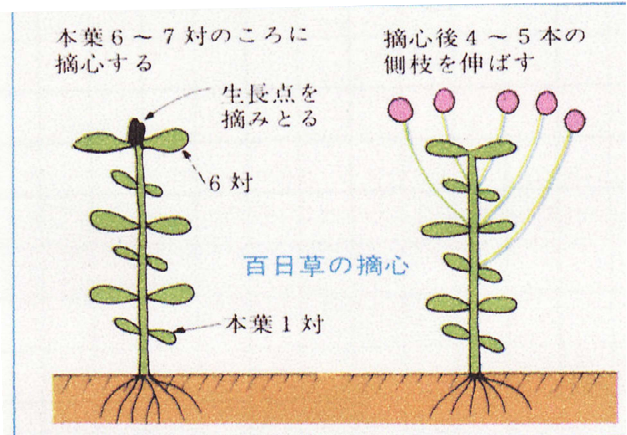
- ① エレガンス…古くからのヒャクニチソウ。花の大きさ、形、色、草丈が異なるさまざまな品種があります。
- ② リネアリス…草丈が低く、細葉で分枝が多い。絶え間なく小輪一重の花が咲きます。
- ③ メキシコジニア…低性、小輪八重覆輪咲き。花色が渋い。



2. 育て方

- ① タネまき…5月以降に露地まきします。ごくうすくまき、6mmくらい土をかけ、水をやったあと新聞紙をかけておき、3~4日後に発芽したら取り除きます。本葉2~3枚のとき6cm間隔で移植します。移植床の肥料は1m²あたり、緩効性化成肥料50g、堆肥5kg、石灰少し。追肥は500倍の液肥を定植までに1~2回。

- ② 植えつけ…本葉6~7枚の時に50cm株間で植えます。高性種は支柱を立てます。低性種は25cm株間とします。摘心栽培のときは本葉6枚の時、芯を摘みとって植えます。



- ③ 肥料と水やり…元肥は1m²あたり、緩効性化成肥料100g、堆肥8kgです。

そのほか500倍液肥を月に2~3回、追肥します。乾燥期には1日1回の水やりをします。株元にはマルチをします。

- ④ 病虫害…うどんこ病 (サブロー乳剤 1000倍)。
アブラムシ (スミチオン乳剤 1000倍)。



キュウリがうまく育たない

Q. 実がつかなかったり、葉が黄色くなったりで、キュウリがうまく育ちません。育て方のコツを教えてください。

A. 病気に強い品種を大き目の容器に植えて、水や肥料を切らさないように与えます。成長が早いので作業が遅れないように気をつけてください。

《ポイント》

旺盛な生育に合わせて、水も肥料もたっぷり施します。毎日、ぐんぐん成長するのが楽しみです。

1. 病気に強い品種

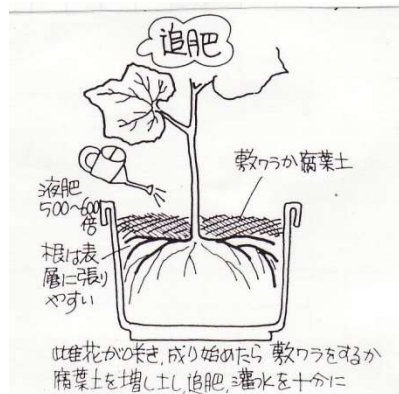
‘Vロード’、‘夏すすみ’、‘つばざ’、‘つや太郎’、‘北進’ ‘シャキット’
(接木苗のほうが育てやすい)

2. 植えつけ

根の量が多いので、大型で深めの容器を使い、有機物を豊富に含むよく肥えた通気性のよい土に植えます。標準プランターに3株植え、元肥は化成肥料20gです。根鉢をくずさないようにていねいに植えつけ、株の回りに十分灌水します。株もとにピートモスやワラを敷いて、乾燥を防ぎます。

3. 水と肥料

水は夏なら毎日2回、たっぷりやります。追肥は標準プランターで化成肥料20gを20日おきに必ず溝を掘って施します。



4. 整枝

子づるは果実の先に葉を2枚残して摘み取り、親づるは支柱の先端に届いたら芯を摘みます。

5. 収穫

果実の長さが15cmくらいになったら収穫します。大きくすると株が弱りますから早どりを心がけます。

6. 無農薬栽培

上記の品種を使えばバト病、うどんこ病の心配はありません。アブラムシがついたら、早めに手で押しつぶせば、無農薬栽培ができます。